

**【O-0073】**

**平均無手術期間によるアクセス開存の評価**

(医) 腎不全センター幸町記念病院外科<sup>1)</sup>, (医) 腎不全センター幸町記念病院内科<sup>2)</sup>, 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科消化器腫瘍外科<sup>3)</sup>  
○宮崎雅史 (みやざき まさし)<sup>1)</sup>, 岡 良成<sup>1)</sup>, 高津成子<sup>2)</sup>, 松田浩明<sup>3)</sup>,  
丸山昌伸<sup>3)</sup>, 宇野 太<sup>3)</sup>, 近藤喜太<sup>3)</sup>, 吉田亮介<sup>3)</sup>

**【目的】** 累積2次開存率は手術や処置の回数とは無関係であるため、手術回数を反映した指標として平均無手術期間を算定し、患者背景で比較したので報告する。

**【方法】** 過去20年間で透析患者648例に対し937回の手術を行った。透析期間内のアクセス関連手術回数に1を加えた数字で透析期間を除いた数字を無手術期間とした。

**【結果】** 観察期間中5年以上透析を行った272例の平均透析期間は10.9年、平均手術回数は2.1回で、平均無手術期間は6.3年であった。慢性腎炎と糖尿病性腎症の5年累積2次開存率は、自家血管でそれぞれ56%、59%、人工血管で45%、45%でいずれも差がなかった。一方、平均無手術期間では慢性腎炎4.4年、糖尿病性腎症2.8年であり、糖尿病性腎症でより多くの手術が行われたことが示された。

**【結論】** アクセス開存の比較には、累積開存率ではなく手術回数を含む指標である平均無手術期間を用いることが有用である。